

基 調 講 演



テーマ：土砂災害の原因究明と今後の土砂災害対策
- 平成 21 年 7 月の防府土砂災害からの教訓 -

講 師：山口大学大学院理工学研究科 特命教授 古川 浩平

略 歴

- ・ 1975 年 4 月 京都大学工学部土木工学科 助手
- ・ 1983 年 4 月 山口大学工学部建設工学科 助教授
- ・ 1989 年 1 月 山口大学工学部土木工学科 教授
- ・ 2010 年 4 月 山口大学大学院理工学研究科 特命教授 現在に至る

専門分野

- ・ 砂防工学、鋼構工学、岩盤工学 他

研究活動・社会活動等

- ・ 土木学会：構造工学委員会委員 他小委員会委員多数
- ・ 砂防学会：平成 21 年山口県内で発生した土砂災害に関する砂防学会緊急調査団 団長
- ・ 山口県：下関地区「わがまちの斜面整備構想策定」検討委員会 委員長
- ・ 山口県：土砂災害警戒区域等指定検討委員会 会長
- ・ 山口県：桑ヶ市橋架設用鉄塔倒壊事故調査検討委員会 委員長
- ・ 山口県：平成 21 年 7 月 21 日豪雨・土石流災害対策検討委員会 委員長
他山口県、日本道路公団、運輸省他の委員会委員長、委員多数

講演内容

梅雨時期の集中豪雨や台風の影響により、毎年各地で様々な土砂災害が発生しています。山口県でも昨年 7 月の中国・九州北部豪雨により防府市を中心に土砂災害が多発し、甚大な被害を受けたことは記憶にも新しいことと思います。

本講演では、まず防府市に甚大な土砂災害をもたらす起因となった降雨の特徴を述べるとともに、土石流が老人ホームを直撃し、多くの被害者を出し社会的にも注目された真尾地区、国道 262 号線に土砂をあふれさせた剣川、巨石の目立つ土石流が発生した石原地区等での災害調査結果の概要を述べた上で、このような土砂災害を生じさせた原因や特徴などを考えてみたいと思います。

また、土砂災害による被害を未然に防ぐことを目的とした砂防えん堤などの構造物による防災対策（ハード対策）や、土砂災害による被害を軽減させることを目的とした警戒避難対策などによる減災対策（ソフト対策）について現状の取り組みやその効果を紹介するとともに、今後の土砂災害対策の進め方について考えてみたいと思います。